コロナ禍における雪かきボランティアの受入意向からみる諸課題

Expectations and Concerns of Persons Needing Support about Snow Removal Volunteer Activities under the COVID-19 Pandemic

小西 信義[1]，筒井 一伸[2]
Nobuyoshi Konishi[1], Kazunobu Tsutsui[2]
Corresponding author: konishi@decnet.or.jp (N. Konishi)

2020-2021 年冬季，コロナ禍での雪処理をどう進めていくか，特に地域外からの雪かきボランティアを受け入れている地域は，降雪前から雪かきボランティア受入についての悩みを抱えていた．そこで，寒冷積雪期直前の雪かきボランティアの受入意向について，雪かきボランティアを必要とする世帯を対象とした調査を実施した．結果，雪かきボランティアの居住地が遠方になればなるほど，「来てほしい」の割合が減り，「来てほしくない」の割合が顕著に増え，今後の広域的な雪処理支援の再構築に向けた課題が浮かび上がった．

1．はじめに

2020-2021 年冬季，我々はコロナ禍での寒冷積雪期をはじめて経験した．降雪前から，共助除雪をどう進めていくか，特に地域外からの雪かきボランティアを積極的に受け入れて共助除雪を進めている地域から，著者らは相談を受けていた．

筆者らはその課題に着目し，寒冷積雪期直前の雪かきボランティアの受入意向について，雪かきボランティアを必要とする世帯を対象としたアンケート調査を実施した．その結果として，雪かきボランティアの居住地が遠方になればなるほど，「来てほしい」の割合が減り，「来てほしくない」の割合が顕著に増えていることを小西ら[1)]にて報告した．

本稿では上記調査結果について属性別等のクロス集計を行うことで，コロナ禍における広域的な共助除雪体制を提示し，その体制を構築するための課題を抽出することを目的とする．

2．調査概要

本アンケート調査の実施概要については以下のとおりであり，詳細は小西ら[1)]を参照いただきたい．また，調査対象地域の最深積雪深や調査当時の感染症警戒ステージ等については次頁表 1 で記す．

調査時期：2020 年 11 月末（一部 12 月中旬）
調査対象地域：1 道 5 県 12 市町村
調査方法：調査対象地域の代表者・担当者に調査協力依頼を行い，郵送法や聴き取り調査など調査手段は地域ごとの裁量に委ねた．
調査項目：性別・年齢の基礎情報，雪かきボランティアの希望の有無，雪かきボランティアの募集範囲の意向，昨冬までの雪かきボランティアをしてもらった箇所，昨冬までの雪かきボランティアとの交流内容，その他雪かきボランティアを受け入れることで気になること

3．調査結果

①回答者の居住地

群馬県，山形県の順に計 127 件の回答があった（図 1）．7 割以上は「国警戒ステージ 1」相当の警戒レベルの段階での回答であったが，2020 年 11 月末頃は地域によって警戒ステージの段階が引き上げられ，移動自粛の程度に違いが生じ出した時期でもあった．

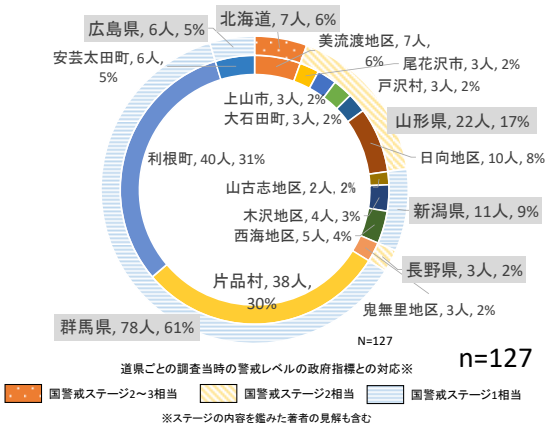

図 1　回答者の居住地

[1] 北海道開発技術センター　Hokkaido Development Engineering Center
[2] 鳥取大学 地域学部 地域創造コース　Tottori Univ., faculty of Regional Sciences

Copyright©2021 公益社団法人日本雪氷学会
The Japanese Society of Snow and Ice

表１　対象地域の概要と調査方法

	調査地区	2月の最深積雪（平年値）	観測地点	調査時期	アンケート時の道県ごとの警戒ステージ	政府指標との対応（ステージの内容を鑑みた著者の見解も含む）	ステージの内容	自粛の程度	調査方法
北海道	美流渡地区	119cm	岩見沢	11月下旬	北海道警戒ステージ3（11月7日～）（札幌市は警戒ステージ4相当（11月17日～））	国ステージ2	感染者がさらに増加し，医療提供体制への負荷がより一層高まる段階（札幌市は，「感染者の急増及び医療提供体制における大きな支障の発生を避けるための対応が必要な段階」）	【札幌市】不要不急の外出自粛・市外との不要不急の往来を控える 【北海道】札幌市との不要不急の往来を控える	町内会役員が分担して聴き取り
山形県	尾花沢市	134cm	尾花沢	11月下旬	山形県注意・警戒レベル3【警戒】（11月26日～）	国ステージ2	感染の広がりが懸念される状態	注意喚起を実施。ただし，県民に対する自粛・休業要請等は実施しない	社協職員による聴き取り調査
	上山市	45cm	山形	11月下旬					社協職員による聴き取り調査
	大石田町	134cm	尾花沢	11月下旬					社協職員による聴き取り調査
	戸沢村	120cm	新庄	11月下旬					社協職員による聴き取り調査
	日向地区（升田，大台野，上草津）	123cm	金山	12月中旬	山形県注意・警戒レベル4【特別警戒】（12月11日～）	国ステージ2	感染が拡大傾向にある状態	政府指標のステージ3の状況にある地域との不要不急の往来は，できる限り控える	民生委員による聴き取りもしくは手交後の回収
新潟県	木沢地区	193cm	小出	11月下旬	新潟県注意報（11月11日～）	国ステージ1	状態を表現する表現無し	注意喚起を実施。ただし，県民に対する自粛・休業要請等は実施しない	地域住民による手交後の回収
	西海地区	110cm	能生	11月下旬					地域支援員（市非常勤職員）が聴き取り
	山古志地区	193cm	小出	11月下旬					地域NPO職員による手交後の回収
長野県	鬼無里地区	96cm	白馬	11月下旬	長野県新型コロナウイルス注意報（11月13日～）（長野圏域は特別警報（11月16日～））	国ステージ2	感染拡大に警戒が必要な状態（警報），感染が拡大しつつあり，特に警戒が必要な状態（特別警報）	注意喚起を実施。ただし，県民に対する自粛・休業要請等は実施しない	住民自治協議会職員の電話による聴き取り調査
群馬県	利根町	150cm	みなかみ	11月中旬	群馬県警戒度2	国ステージ1	県内，都内ともに感染リスクが抑制されている	注意喚起を実施。ただし，県民に対する自粛・休業要請等は実施しない	独居高齢者等に社協職員（在宅介護，ホームヘルパー，デイサービス職員など）が聴き取り
	片品村	206cm	藤原	11月中旬					独居高齢者等に社協職員（ホームヘルパー職員）が聴き取り
広島県	安芸太田町	103cm	八幡	11月中旬	国ステージ1	国ステージ1	感染者の散発的発生及び医療提供体制に特段の支障がない段階	注意喚起を実施。ただし，県民に対する自粛・休業要請等は実施しない	社協職員と地区担当集落支援員で訪問しての聴き取り調査を実施

引用：小西ら（2021，66）

②性別・年齢の基礎情報

回答者は 6 割以上が女性を占めた．80 代・70 代女性が全体の 4 割強を占め，70 代男性が 1 割を占め，自宅の自助による雪処理が困難だと思われる世代を中心に回答を得ることができた（図 2）．

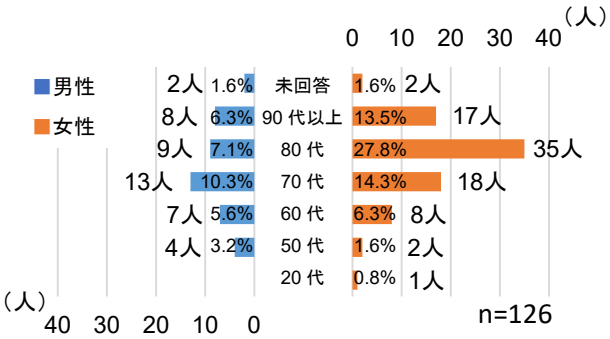

図２　回答者の性別と年代

③雪かきボランティアの希望の有無

回答者の 7 割以上が「来てほしい」という回答をした．回答者の年齢が高齢になるほど，「来てほしくない」と割合が増え（図 3），国警戒ステージが「1」の地域では全員が「来てほしい」と回答したが，「2」の地域では「来てほしくない」の割合が 3 割に増えた（図 4）．

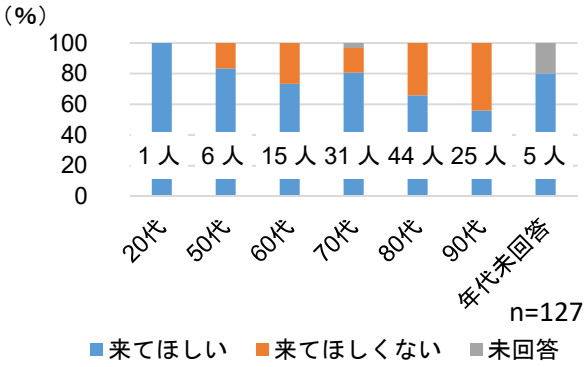

図３　年代別でみた
雪かきボランティアの希望の有無

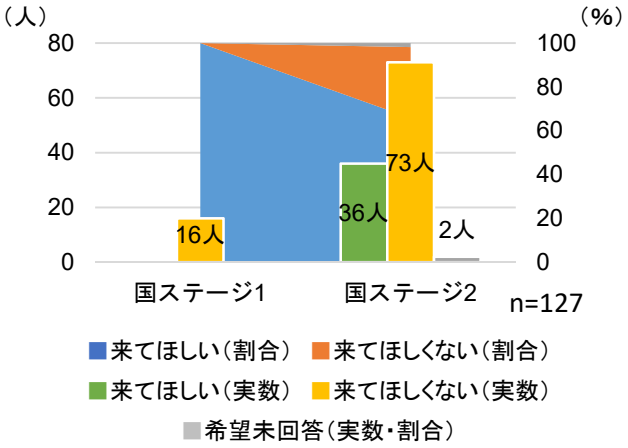

図４　回答者の居住地における国警戒ステージと
雪かきボランティアの希望の有無

Copyright©2021 公益社団法人日本雪氷学会
The Japanese Society of Snow and Ice

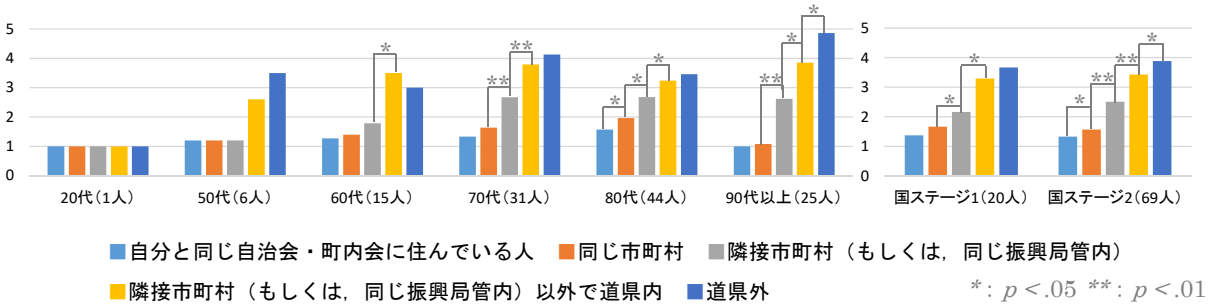

図５　雪かきボランティアの居住地の範域（左年代別，右国ステージ別）

④コロナ禍でも許容するボランティアの居住地

雪かきボランティアの募集範囲の意向，言い換えればコロナ禍でも許容する雪かきボランティアの居住地の範域を，５段階（1:「来てほしい」～5:「来てほしくない」）で尋ね，年代別・ステージ別でその平均値を図５に表し，隣接する藩域でt検定を行った．

年代別では70年代以降から，雪かきボランティアの居住地が遠くなればなるほど，受入に否定的な回答が有意に増えた．また，政府指標に準拠した警戒ステージ別では，特に，国警戒ステージ2の地域では募集範囲が拡がるにつれ，否定的な回答が有意に増えた．

⑤昨冬までのボランティアによる除雪箇所

昨冬までに受けた除雪支援内容については，「窓下などの家屋の周辺」が8割近くを占めた．

除雪支援ごとの経験別からみた除雪ボランティアの希望では，これまで雪下ろしの支援を受けた世帯においては除雪ボランティアを希望する割合が微増したが，全体としては経験別と受入希望の間に有意差は見られなかった（図6）．

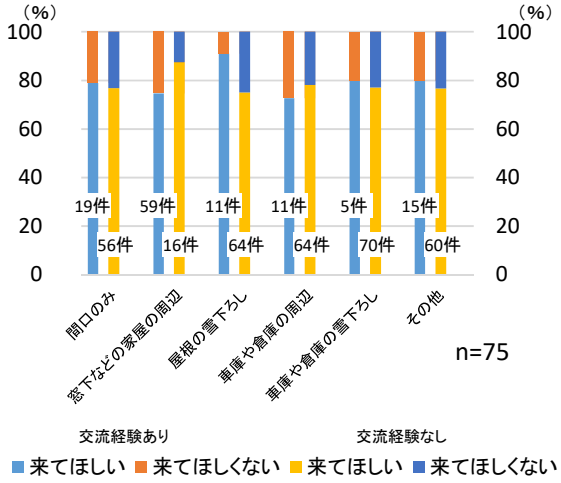

図６　昨冬までの雪かきボランティアの経験と雪かきボランティアの希望の有無

⑥昨冬までのボランティアとの交流内容

コロナ禍以前の雪かきボランティアとの交流の内容については，「雪かき前後の挨拶程度」が4割を超え，いわゆる濃厚接触とはなりにくい交流がこれまで行われたようである．交流の「経験あり」のほうが「経験なし」よりも，「来てほしい」の割合が高い傾向となった（図7）．

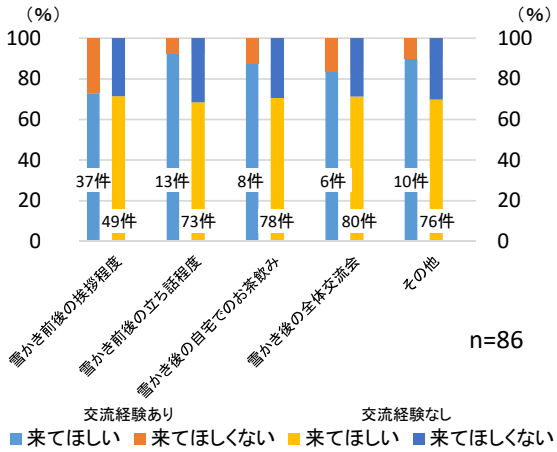

図７　昨冬までの雪かきボランティアとの交流内容と雪かきボランティアの希望の有無

４．まとめと今後の課題

４－１．アンケート調査結果のまとめ

雪かきボランティアの居住地が遠方になればなるほど受入に対して否定的な回答が増え，さらに，回答者の年齢・警戒レベルが引き上がるにつれ，上記の傾向はより顕著となった．重症化リスクの自覚や羅漢への警戒度の高まりが，除雪ボランティアを受け入れる心理的なハードルを高くすることを示唆する．

これまで受けた除雪支援内容によって，雪かきボランティアの希望の有無に対する影響は生じにくく，支援を受ける雪処理の程度は雪かきボランティアを受け入れるか否かの判断材料とはならないようである．

Copyright©2021 公益社団法人日本雪氷学会
The Japanese Society of Snow and Ice

また，コロナ禍以前の雪かきボランティアとの交流の内容は「雪かき前後の挨拶程度」が大半で，一般的に見て濃厚接触とはなりにくい交流内容と言える．ただ，交流の「経験あり」のほうが「来てほしい」の割合が高く，特に，挨拶程度以上の接点のある交流内容では，「来てほしい」の割合が高くなることから，交流の親密さが受入の心理的ハードルを下げる効果として確認された．

４－２．今後の諸課題

2021-2022 年度冬季もコロナ禍との共存が想定される中で，7 割にもなる雪処理ニーズをどのように充たすかが今後のもっとも大きな課題となる．本調査により，ある程度許容できる雪かきボランティアの募集範囲や交流機会が受入のハードルを下げる効果が見出されてきた．これらの成果をもとに，支援する側と支援を受け入れる側が互いに安心感と納得感が得られる「妥協点」を探っていくことが必要であると考える．

図 8 の通り，隣接市町村までの居住者の受入については肯定的な回答が占め，かつ「隣接市町村以外で県内の居住者」の範域以上から「来てほしくない」の割合が顕著に増えたことから，隣接市町村以内／以外が雪かきボランティアの募集範囲の妥協点のひとつとなり得ると考えられる．

「隣接市町村以内」のボランティアについては，感染症予防対策を徹底する限り，ある程度納得感が得られると考えられる．一方，「隣接市町村以外」のボランティアについては，　双方の感染症拡大状況が低リスクであることや，支援者／受援者を限定的にして実施するなどの対応が求められると思われる．

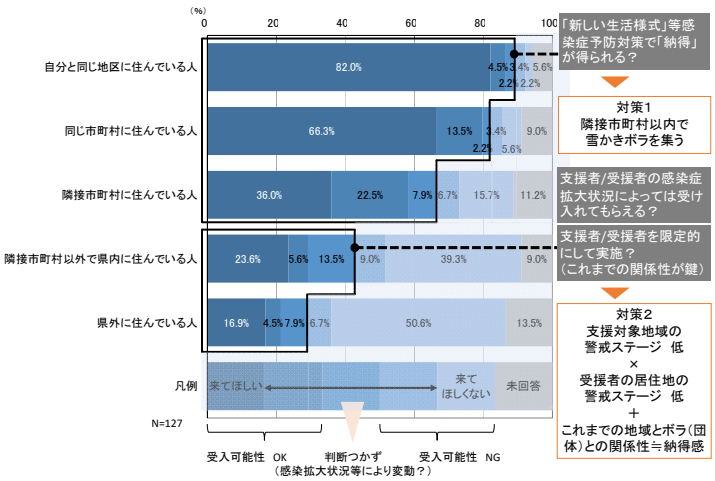

図８　コロナ禍における共助除雪体制の検討

また，本調査から導かれる実践上の課題も指摘しておきたい．共助体制を再構築していくために，支援する側と支援を受け入れる側が互いに安心感と納得感が得られる「妥協点」を見出すことを指摘したが，具体的には 2021-2022 年冬期の雪処理の在り方について地域ごとで降雪前に議論を積み上げておく必要性がある．議論すべき論点としては，「除雪ボランティアを受け入れるには，地域としてどのような基準（雪かきボランティアの募集範囲や感染症対策等）を設けたら良いのか？」[注 1)]，「どのように除雪ボランティアの受入に向け受援者と合意形成をしたらよいのか？」などが挙げられる．

さらに，研究上の課題として，今後，実際に雪かきボランティアを受け入れたのか，もしくは地域内共助をどのように再構築したかなどの今季の実態を把握する調査を行う予定である．

引き続き，コロナ禍においても雪処理の担い手をどのように確保するか模索していきたい．

【謝辞】

調査の実施にあたっては各地の関係する皆さまにご協力をいただきました．ありがとうございました．

【注】

1)　2020 年 10 月 12 日「with コロナ期における雪かきを考えるオンラインミーティング」での根本昌宏氏（日本赤十字北海道看護大学）による，「とにかくできることからやっていただきたい．できない理由を並べてしまうと（コロナ禍によって）何事もできなくなってしまう．支援者と受援者それぞれの感染症対策の考え方や裏付けを見出していただきたい」の言説を参考とした．

【参考文献】

1)　小西信義・筒井一伸，2021：コロナ禍における雪かきボランティア～受入の意向に関するアンケート調査結果～，日本雪工学会誌，**37**，64-67.

Copyright©2021 公益社団法人日本雪氷学会
The Japanese Society of Snow and Ice